



うしお丸 3 世 (本学函館キャンパス事務部提供)

新うしお丸建造

1月上旬から運用開始

本学水産学部の練習船として実習や海洋調査に使われてきたうしお丸 2 世 (以下 2 世) の老朽化に伴い、

新うしお丸の基本情報

3 世は全長約 45 ・ 62 呎で幅 8 ・ 20 呎、深さ 3 ・ 40 呎だ。現在運用している 2 世よりも一回りほど大きい。

総トン数 (注 1) は約 260 トンで、2 世の 179 トンに比べ増加しているが、沿岸

	2世	3世
全長	39.39m	45.62m
幅	8.10m	8.20m
深さ	3.00m	3.40m
満載喫水	2.60m	2.85m
総トン数	179トン	約260トン
航海速力	11ノット	約11ノット
主発電機	200kVA	330kVA

各種データ

注カフェ、北大で開店



接客する中島さん (10 月 22 日)

吃音 (きつおん) がある人が接客をする「注文に時間のかかるカフェ」注カフェを発売した奥村安莉沙さん (30) が 10 月 22 日、本学の学術交流会館で注カフェを開店した。当日は吃音がある大学生や社会人が、1 日限定でカフェ店員として接客。本学から中島佑太さん (工学院修士 2 年) と山崎佑基さん (工学院修士 2 年) が店員として参加した。

船内環境は向上

災害時の給電設備も

3 世は最大 33 人 (船員 16 人、教員 3 人、学生 14 人) が乗船可能で、女子学生や教員の増加に伴って女性用衛生区画や洗面区画が拡充された。また 2 世は船の揺れが大きかったが、3 世には舵減揺装置が搭載されることで船酔いを軽減でき、より快適な船内生活を送れるようになった。

3 世に積み込まれた調査設備は ROV (水中ドローン)、自動えい航式連続 TO

域を航行できるように満載喫水 (注 2) は 2 ・ 85 呎に抑えられている。さらに省エネ効果を狙い、プロペラ付近にアルティメットラダーが付けられた。

また大規模な災害が発生した際に備えて、支援物資を運ぶ設備や船から陸への給電設備も搭載されている。給電できる電気 (100 ボルト・90 ワット) は一般家屋の 2 軒分相当だ。

注 1 総トン数 船の大きさを表す指標

注 2 満載喫水 最大量の荷物を積み込んだ際に船が沈み込む深さ

注 3 Tow-yo 観測 船で観測装置をえい航しながら、海中の電気伝導率・水温・深度などを測り、海底の熱水噴出孔の様子を調べ

る観測

北大病院・日糧製パン・ローソン 共同で減塩パンを開発 売れ行き好調



塩を加えずに焼き上げたロールパン 2 個入 = 税込み 181 円

塩分を取りすぎ

塩分の取りすぎは高血圧をはじめとした生活習慣病の原因となる。厚生労働省が策定する「日本人の食事

と話す一方、「昨今はコメの消費量も減っていて、パンを食べる機会も増えたこと

も原因」だと指摘する。

「ご飯とは異なり、パンは製造の過程で食塩を入れることが一般的で、実際に 6 枚切りの角型食パン 1 枚には約 0 ・ 72 塩 (日本食品標準成分表 2020 年版 八訂) 含まれている。熊谷さんは「基準を守って献立を作ろうとした場合も、減塩されていないパンだと塩分の少ないおかずしか合わせられないので、おかずのバリエーションが限られてしまつ」と話す。

SNS で減塩パンのレシピを配信中



YouTube チャンネル「おいしい！北大病院レシピ」

お題 秋祭り

えるむ歌壇

【第八回】

秋と呼ぶにはもう遅い装いで光る並木に包まれてゆく

太鼓の音夏を想ふと去る日々よもはや空には高く雲舞う

霧雨が枯れ色を貼るアスファルトなこれと下駄で踏みつけてゆく

映像としては乱れてあなただけに被せる褐色のジャケット

／吹風佐梨

／阿武二水

／三石路之

／永坂窓

／関町静

提供：北海道大学短歌会

塩ロールパンを開発した。

減塩ロールパンは 9 月 13 日から道内のローソンで販売が開始され、多くの店舗で品薄になってしまつて好評だ。北大新聞はパンの開

発に携わつた熊谷聡美さん (北大病院・管理栄養士)、

池田陽子さん (北大病院・管理栄養士)、本学の坂直

哉教授 (北大病院栄養管理部長) を取材した。

日本人は

「おいしいものを作らなければ、みんなに食べてもらえない」と 3 人は話す一方、

単にパン作りの工程で塩を使わないだけではおいしいパンはできない。パンに使う食塩の量を抑えると、その分食べたときの塩気が少

なくなつたり食感が損なわれたりする。これらの弱点を克服するため、減塩ロー

ルパンには豊かな香りの道産全粒粉と道産小麦が多く使われている。

しかし、単に全粒粉を加えるだけではパンが固くなつてしまつただけでなく、

表面がしわしわになつてしまったという。池田さんは「日糧製パンの担当者の方

に何度も試作してもらい、ふんわりとしたやわらかいパンができた」と振り返る。

話題の人に会える ! ?

北大の「今」がわかる !
文理問わず大歓迎 !!

THE MAINSTREET 北海道大学新聞編集部

新メンバー募集中!

ぜひ、北大新聞

活動に興味を持った方は、右の WEB 新歓申し込みフォームからご連絡ください ! ▶▶▶▶▶▶▶▶



4年ぶりの金葉祭

2万3千人が黄葉や企画楽しむ

第11回北大金葉祭が10月29日・30日に本学の北13条通りで開催された。新型コロナウイルス感染症の影響などで対面開催は4年ぶり。歩行者天国にした北13条通りで、日中はステージでのパフォーマンスやアトラクション企画が行われ、夜間はイチョウ並木のライトアップやねぶたの展示が行われた。2日間で約2万3000人が訪れ、感染対策の下、黄葉や企画を楽しんだ。

圧巻のライトアップ

点灯時には歓声も

29日夕方、整理券を持った来場者がイチョウ並木を観覧エリアに詰めかけた。午後6時になるとイチョウの木の下に設置された40個の白熱電球が次々と点灯。来場者の歓声とともに約400灯のイチョウ並木は金色のトンネルへと姿を変えた。ライトアップは29・30日ともに午後6時から午後9時まで行われた。午後7時30分から午後8時30分までの1時間は、白熱灯でのライトアップに加え、様々な色のLED発光ダイオードで照らすフルカラーライトアップも実施。イチョウの葉が桃色や緑色に染まり、会場は幻想的な雰囲気になった。

当日は北13条通りの車道をイチョウ並木観覧エリアとして歩行者天国にし、写

色のLED発光ダイオードで照らすフルカラーライトアップも実施。イチョウの葉が桃色や緑色に染まり、会場は幻想的な雰囲気になった。



ライトアップされたイチョウ並木 (10月29日午後7時ごろ)

子供向け企画も充実

薬学部棟付近では「実験工作縁日」として工作体験などの企画が行われた。多くの親子連れでにぎわい、特にヨーヨー釣りではヨーヨーが足りず一時中止になるほどの大盛況。工作企画では子供たちは学生らにサポートされながら松ぼっくりのツリーやどんぐりのアクセサリーなどの作成を楽しんだ。アクセサリー作りを体験した6歳の男の子は「色を塗るのが楽しかった」と話した。



子供たちは保護者に見守られながらアトラクションを楽しんでいた (10月30日)

またアトラクション企画「こんちゃんを救え！」にも多くの子供たちが参加した。子供たちは縄をくぐり抜けた矢を射ったりするアトラクションを楽しんだ。企画を体験した8歳の女の子は「矢をつのが楽しかった」という。母親の40代女性性は「コロナ禍の前は毎年来ていたので今年も来た。歩行者天国や色々なイベントが行われていてびっくり。同祭実行委員の年代

（ねんだい）さん（医学部保健学科1年）は「想定よりも小さい子が楽しんでくれてよかった」と話す。「いちよう絵馬」の企画も行われ、訪れた人が思い思いの願いをイチョウの形を模した紙に書いて飾った。願いを書いた9歳の女の子は「お金持ちになれるように、と書いた。黄色だから叶いそう」と楽しみに話した。その他にもスタンプラ

北大の「今」を発信中！



ウェブサイト
(THE MAINSTREET)



Twitter
(@HokudaiShinBun)

THE MAINSTREET



Powered by 北海道大学新聞編集部

潜入！恵迪寮 3年ぶりの一般公開



装飾された寮の玄関(10月29日)

本学の学生寮「恵迪寮（けいてきりょう）」（札幌市北区北18条西13丁目3番地）で10月29・30日、寮内の一般公開が行われた。寮に住む学生が部屋を装飾して飲食の提供やミニゲームを行ったり、演劇を披露したりして訪れた人々をもてなした。恵迪寮は札幌農学校の寄宿舎として1905年に開設された。2度の建て替えを経て現在は本学の学生約360人が共同生活を送る。学生自治寮で、寮の管理・運営は恵迪寮自治会を中心に寮生自らが行っている。寮内の祭「恵迪寮祭」は毎年秋に開催される。114回目となる今回は10月4

日から約1か月にわたって相撲大会や寮歌の発表会などが行われた。寮内の一般公開も同祭の恒例だったが、近年は新型コロナウイルスの感染の影響で開催を断念。今回は3年ぶりの実施となった。当日は各部屋で様々な企画を実施して訪れた人をもてなす「部屋デコレーション」が盛りだくさんだ。寮中央にある共用棟では、布を張ってステージを製作

和菓子作りが体験できる「練り切り作り」など、寮生オリジナルのユニークな企画が盛りだくさんだ。寮中央にある共用棟では、布を張ってステージを製作

し、演劇「恵迪座」の公演や映画の上映などが行われた。演劇は約90分間、映画は約40分間の大作で、監督も役者もすべて寮生。客席は満員となり、公演後には笑いあり感動ありの作品に拍手が起こった。夏休み中から装飾などの準備を始めたが、実施日の朝にぎりぎり完成した企画もあったという。同祭実行委員長の光行奏登さん（農学部2年）は「3年ぶりに人が集まるか不安だったが予想よりもたくさんの方が来てくれた。寮に一般の方がいる様子を見ることはなかなかないので新鮮」と話した。



願い事がイチョウの木に (10月30日)

北大の「今」を発信中！



ウェブサイト
(THE MAINSTREET)



Twitter
(@HokudaiShinBun)

THE MAINSTREET



Powered by 北海道大学新聞編集部